

今回の地震を目の当たりにして

介護職員 相澤 まゆみ

3月11日、「さわざくらの里」で勤務中にあの「地震」に遭いました。今まで経験したことのない、自分が立っているのがやっとな、ビックリするほど揺れが大きく、が、まず利用者様の身の安全を確保するのが精いっぱいでした…。その後も身体の調子がおかしく、ずっと揺れているような感じでした。この日はそのままホームに泊まり、夜勤者と他の日勤職員と共に怖い夜を過ごしました。利用者様方も停電で暗くて寒い生活にかなりの不安もあったことでしょう…。

4月に入り2回目の大きな地震の時は私が夜勤に当たっており、その時は、無我夢中で利用者様を起こして安全な場所へ移動していただきました。その直後、深夜にもかかわらず、勤務外の職員も様子見に駆けつけてくれたので、私も少しホッとしたと同時に足の震えが止まりませんでした。

でも、今回の地震を経験し、いろいろ得たことがありました。私たち職員も、余震が来るたび不安で怖い思いの中でみな助け合い、一丸となって、ホームの中が明るくなるように努めました。

まだまだ余震が続き、怖い思いのなか生活しているとは思いますが、一日々々を元気に明るい笑顔で、震災を吹き飛ばす気持ちで頑張っていきたいと思います(ˆoˆ)／

あの日 あの時

介護支援専門員 佐々木 正志

この度の東日本大震災におきましておきましては、被害にあわれた方々に謹んでお見舞い申し上げます。特に、沿岸の施設におきましては、利用者様や職員の方々が多数犠牲になられました。心よりご冥福をお祈

り申し上げます。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

当施設におきましては、利用者様、職員ともども怪我もなく、不幸中の幸いでした。なんといってもライフラインが断たれ、夜はロウソクや懐中電灯で、寒さも身に伝えました。また、職員も通勤するガソリンもなく、ホームに泊り込みをしたり、社長自らディーゼル車で職員の足になりました。また、食材が不足するなか、災害支援物資をいただき、大変助けられました。

私たちは2週間程度でしたが、沿岸部の方々は長期に渡られるため、大変ご苦労されていると思います。特に、お年寄りの方々は避難している間にも認知症が進行したり、亡くなるケースもあると聞きました。ある施設では、被災された方々を受け入れ、定員の倍になったにも関わらず、仲のいい利用者様同士を一室に同居していただくことにより、食事が一人で食べられるようになったなど、プラス面も見えてきたと聞きました。復興する間までも、地域密着型とか定員だとか言わずに受け入れ態勢を整えるよう、一日でも早く行政が動くなどしなければ、被害が増大すると思います。

また、政府も現在900兆の国債があり、60年償還にも関わらず、今回福島第1原発関連を含め、25兆円から50兆円の被害額と聞いておりますが、復興国債を発行するなど何らかの手を早急に打っていただき、軌道にのってほしいところであります。

そして税制改革など心配な面はありますが、国債の償還に目途をつけ、今後は被害を最小限にとどめるためにも、原発を含め大災害を想定した対策をうちたてるなど検討していただきたいと思います。また今後の高齢社会においても社会保障をさらに充実されるよう願っております。

【4月の行事】

4月17日 こいのぼり作成

職員が切り取った鯉のぼりの絵を、利用者様で貼り付けしていただきました。

4月26日 お花見

さわざくら公園にて皆さんで桜の下でお茶をいただきました。



4月29日 「火伏の虎舞い」

初牛祭りの虎舞いがホームに来てくださいました。虎と記念撮影も。

【5月の行事】

5月2日 八十八夜

抹茶を立てて頂きます。



5月5日 子供の日

こいのぼりの歌を皆さんで歌います。

5月29日 利用者様のお誕生会

ボランティアさんに来ていただき、盛大にお祝いをします。

